

ひがしおおさか 水道ビジョン 2030 概要版

(素案)



これからの10年間の取り組みです

「ひがしおおさか水道ビジョン 2030」は、これからの東大阪の水道が目指す姿及び目標を設定し、その実現に向けた今後の施策の方向性を示す、本市水道事業計画の最上位に位置付けられるものです。計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。

基本理念



ささえる
つながる
未来につなぐ



— 健全水道 東大阪 —



市民の生命・生活を支えつづけていく重要なインフラとしての使命をもち、ラグビーからイメージされる団結力で市民・地域・近隣事業者・協力企業などと連携していきながら、東大阪に携わる全ての人々を支え、またその活動をつなげ、さらに未来・次世代に引き継いでいくことができる「健全水道」の実現をめざします。

3つの将来像

安全・安心・安定の信頼される水道

安全な水道水質の維持向上、水道施設の再構築と維持管理により、いつでも、どこでも、安全・安心な水を安定してお届けすることを目指します。

災害に備えた強靱な水道

水道施設のレベルアップ、危機管理のレベルアップにより、災害等による被害を最小限にとどめ、かつ迅速に復旧できるしなやかな水道を目指します。

健全な経営を継続できる水道

- > 経営基盤の強化
 - > 組織運営の強化・効率化
 - > お客さまサービス向上
 - > 環境への配慮
- により、将来にわたって持続的な事業運営が可能な水道を目指します。



実現方策

安全な水道水質の維持・向上

効率的な水道施設の再構築と維持管理

水道施設のレベルアップ

危機管理のレベルアップ

経営基盤の強化

組織運営の強化・効率化

お客さまサービスの向上

環境への配慮

施策

- ①水質管理体制の充実
- ②鉛製給水管解消の推進
- ③貯水槽水道への指導・助言強化と直結給水の推奨

- 重点** ④水道施設の最適な配置・規模での整備
- ⑤水道施設の適切な更新・維持管理の推進



水質検査の様子

- 重点** ⑥水道施設の防災対策の推進



耐震化された施設（上小阪配水場）

- 重点** ⑦危機管理体制の充実
- ⑧地域・他事業者・企業との連携の推進



内部研修の実施状況

- 重点** ⑨適切な資産管理の推進
- ⑩必要な財源確保の推進

- 重点** ⑪効率的な組織運営の推進
- ⑫水道に精通した人材の育成
- ⑬広域連携・官民連携の推進

- 重点** ⑭広報・広聴手法の充実
- ⑮水道サービス・手続の充実
- ⑯給水工事事業者の資質向上



東大阪水道サービスセンター開所式

- ⑰省エネルギーに努めた水運用の推進
- ⑱環境へ配慮した事業の推進

水道事業を取り巻く環境の変化

安全・安心な水道水を安定供給するためには、全ての水道施設を適切に管理する必要がありますが、人口減少社会の到来や自然災害への対応などにより、東大阪市の水道は以下のような課題に直面しています。

水需要の減少

人口減少や節水機器の普及により40年後には…

2/3に減少。



1日平均使用水量(有収水量)

R1年度 14万³/日 → R42年度(推計) 9~11万³/日

料金収入の減少

必要な施設はほぼ同じですが、水道を支える人の数(お客さま)は減少。



料金収入(税抜き) R1年度 82億円 → R42年度(推計) 53~64億円

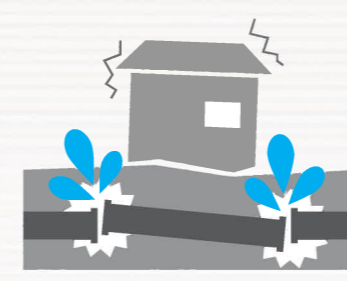
水道施設の老朽化

高度経済成長期に整備したものの経年化が進行。



40年を経過した管路の割合 R1年度 36% → R12年度(推計) 54% ※管路更新をしなかった場合

災害リスク



南海トラフ地震の発生確率 70~80% (30年以内)

資金残高の不足

今後10年以内に健全な事業運営ができなくなる見通し。



職員数の減少

ベテラン職員の退職など。



水道事業職員数(正職員) H1年度 314人 → R1年度 132人

ひがしおおさか水道ビジョン

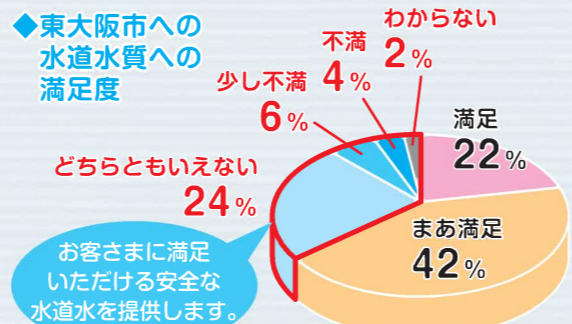
8つの実現方策と18の施策



安全・安心・安定の信頼される水道

実現方策1 安全な水道水質の維持・向上

- ①水質検査や水質モニターによる水質管理体制を充実し、お客さまに安心・安全な水道水をお届けします。
- ②残存する鉛製給水管の解消を推進し、漏水の減少及び給水安定性の向上を図ります。
- ③貯水槽水道への指導・助言の強化、貯水槽から直結給水への切替推奨及び啓発を推進し、水道水への信頼性・満足度の向上を図ります。



※R1 東大阪市の水道に関するアンケート調査結果より

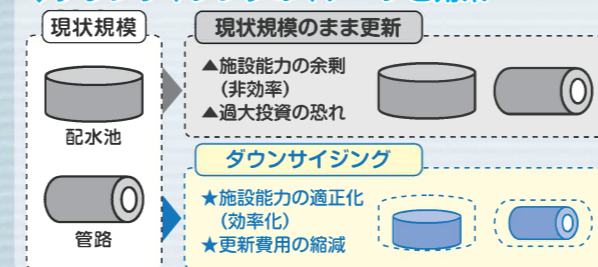
実現方策2 効率的な水道施設の再構築と維持管理

- ④水道施設の統廃合やダウンサイジングにより規模の適正化を図るとともに、配水区域のブロック化など効率的な水運用を行い、最適な配置・規模での水道施設の整備を推進し、コスト削減や事故・災害時の被害軽減を図ります。
- ⑤長期的な更新需要を見通したうえで、管路更新の段階的なペースアップなど施設の計画的な更新や適切な維持管理を推進し、水道施設の健全性を維持します。

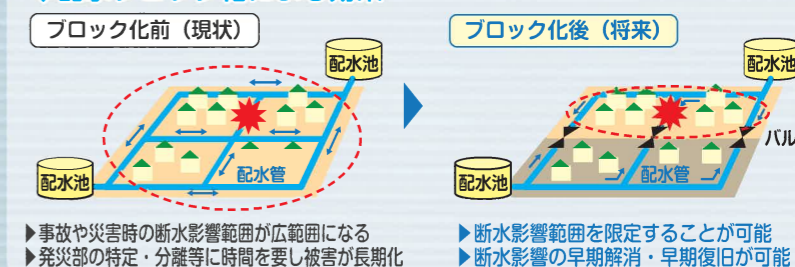
◆管路更新のポイント



◆ダウンサイジングのイメージと効果



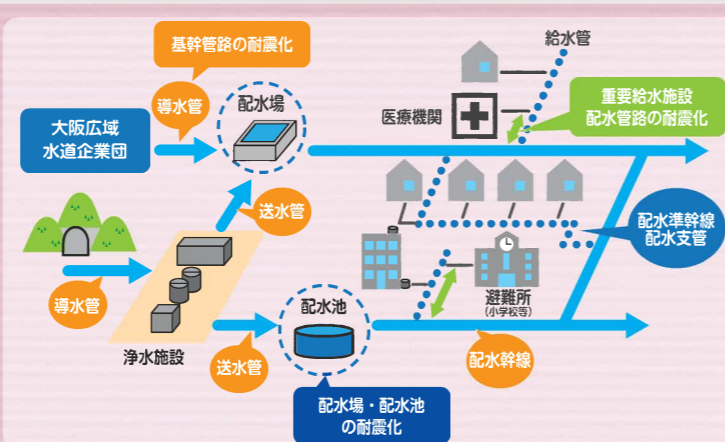
◆配水ブロック化による効果



災害に備えた強靱な水道

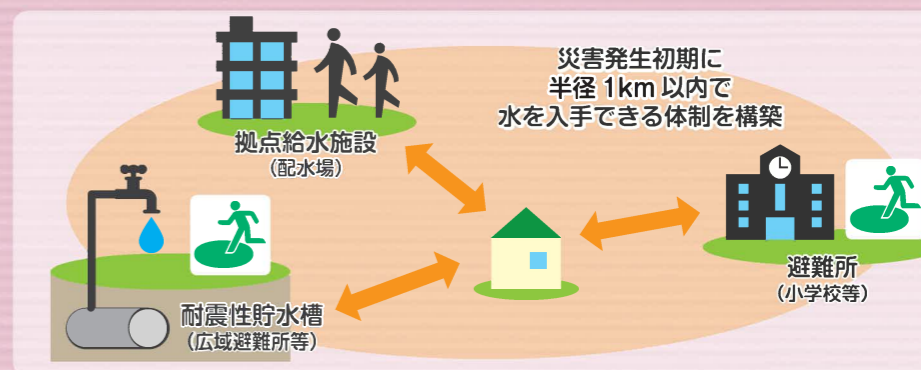
実現方策3 水道施設のレベルアップ

- ⑥災害時における水道水の安定供給のため、配水池の耐震化や、管路の耐震化(特に基幹管路や重要給水施設配水管路)を進め、水道施設の防災対策を推進します。



実現方策4 危機管理のレベルアップ

- ⑦災害発生初期に半径1km以内で水を手入できる応急給水体制を構築するため、応急給水施設の整備を進め、危機管理体制の充実を図ります。
- ⑧地域・他事業者等との災害対策訓練の実施や、家庭や地域における自助・共助のためのPRの充実により、地域・他事業者・企業との連携を推進します。

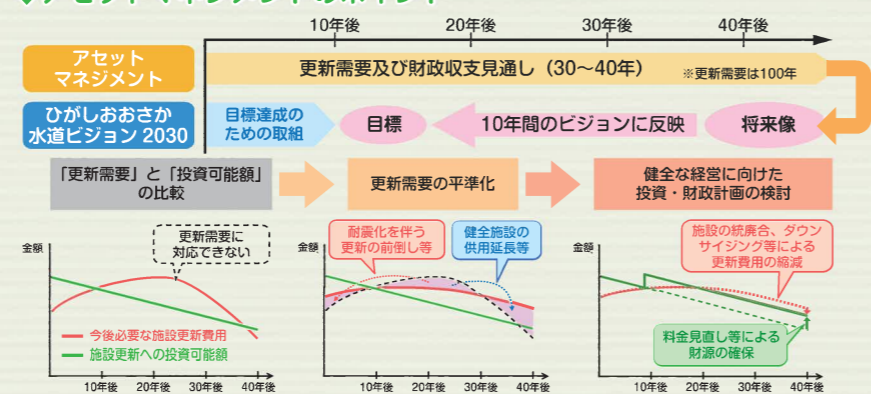


健全な経営を持続できる水道

実現方策5 経営基盤の強化

- ⑨アセットマネジメントの推進・充実により、適切な資産管理を推進し、事業経営の持続性・健全性の向上を図ります。
- ⑩持続的な事業経営のため、適正な料金水準・料金体系の検討を行い、必要な財源の確保を推進します。

◆アセットマネジメントのポイント



実現方策7 お客さまサービスの向上

- ⑭情報発信によるお客さまとのコミュニケーション促進や水道への理解促進など、広報・広聴手法を充実し、水道事業の透明性・信頼性の向上を図ります。
- ⑮お客さまのニーズを的確にとらえ、水道サービスの充実を図ります。
- ⑯指定更新手続きや指導の充実により、指定給水工事事業者の資質向上を図ります。

◆戦略的な情報発信

水道への理解促進
~もっと水道のことを知ってほしい~

- ・経営状況
- ・将来の見通しの開示
- ・防災への取り組み
- ・水道料金の使い道 など

リスクコミュニケーション
~自分・家庭・地域でも防災~

- ・自助(家庭での災害への備え)
- ・共助(地域での応急給水活動)

◆インターネットでの受付 24時間体制の緊急対応

インターネット受付
水道の使用開始・中止
名義変更等

「水が漏れている・水が出ない・水が濁っている」などのご相談は、業務時間外でも対応しています。

06-6724-1221
24時間365日繋がります

実現方策6 組織運営の強化・効率化

- ⑪組織機構改正や職員定数の見直しなどにより、水道事業の組織運営の効率化を推進します。
- ⑫ベテラン職員による技術継承や、研修への積極的な参加により、水道に精通した人材の育成を推進します。
- ⑬府域一水道を目指した大阪広域水道企業団との統合検討や民間活力の利用などにより、広域連携・官民連携を推進し、運営体制の強化・効率化を図ります。



実現方策8 環境への配慮

- ⑰水圧や位置エネルギーの活用及び省エネ機器の導入により、省エネルギーに努めた水運用を推進し、環境負荷の低減やコスト削減を図ります。
- ⑱再生可能エネルギー発電(太陽光・小水力発電等)導入の推進や、建設工事副産物(土砂・アスファルト等)のリサイクル推進により、環境へ配慮した事業を推進します。

◆再生可能エネルギーの有効利用

